

小さい抗議

永宮健夫(阪大基礎工)

物性研究4の5で名古屋大学特集を面白く拝見しました。特に伏見先生の意気さかな昔話しを読ませていただきましたが、伏見先生の博覧強記にもかかわらず、私と同じく年のせいか、時折誤りがつたえられます。私が一次元の condensation の話をして論文になり (Proc. Phys.-Math. Soc. Japan 22, 705, 1034 (1940)) 高橋さんが一次元で condensation を起すのはおかしいといった由は誤りで、私が一次元で状態和の面倒くさい計算をして状態方程式を作り、condensation は起らないことを示しましたら、高橋さんは

$$\int_0^{\infty} (\text{状態和}) \times e^{-pV/kT} dV$$

(但しVは一次元の体積、すなわち長さ)を求めれば面倒な計算はいらないと示されただけです。高橋さんの論文も印刷されています。ついでですが、この私の論文は割に読まれ、その頃京城で4捨5入の誤差論をやっておられた宇野利雄さんからお手紙を頂いたり(というのは、その誤差分布の関数を、知らずにその中で導出していたものですから) Prigogine に12年後に会ったときよく覚えていてくれたりしました。

伏見さんは卒業後、東大物理の助手を1年間つとめられ、私は東大工学部数学力学研究室の助手を3年間つとめたのですが、その頃、同研究室には山内さん、犬井さん、私の3人が常住で、小谷先生はよく見えました。既に理学部助教授になつておられました(私ら3年生のときに移られました)。この辺の伏見さんの御記憶もあいまいで、工学部に出向いては、いちめられた、ということですが、実際には私と一緒にPauliのRelativitätstheorieを読んだとき以外、あまり来られませんでした。阪大に移られてからは、上京の度に寄られ、山内さんとやり合つておられました。たぶんその印象が助手時代に superpose されているのでしょう。3年前の"自然"に今回の談話の一部が書かれていますが、その頃、つまり伏見さんの助手時代に、私が東京高等学校

ニュース・プレプリント

の先生ということになっています。つまらないことです。

ついでに、志水さんの話の中で、Cr のネール点で転移が first kind だと非常に困るとのことですが、どうして困るか知りたいと思いました。昨年の Nottingham Conference で私は first kind の可能性があることを述べ印刷されているのですが。

(1965, 9月)

ニュース

三井惟靖氏 (北大) 8月31日アリゾナ大学より帰学
福島正久氏 (北大) 7月1日付で名大物理教室へ転出
秋山盛雄氏 (北大) 9月より北大物理結晶物性研究室助手として赴任
田中基之氏 (京大) 10月1日付で岡山大助教授として赴任
川崎辰夫氏 (京大基研) 京大物理教室助手となる。
金徳州氏 (東大) MIT の National Lab. へゆかれた。

プレプリント

- Interaction of Phonons with Paramagnetic Centers and the Phonon Maser (E. B. Tucker)
- Phonons in Metals (W. A. Harrison)
- Magnetic Properties of Nearly Free Electrons II de Haas-van Alphen Oscillation for a Simple Model (M. Lawrence Glasser)
- The Chapman-Enskog Solution of the Generalized Boltzmann Equation (Leopoldo S. Garcia-Colin, M. S. Green and F. Chaos)
- The Spin-Orbit Interaction in Metals and Semiconductors. (A. O. E. Animalu)
- Note on the Transport Coefficients of a Moderately Dense Gas